

# かたかし①

## (ヒメジ科)

～“ヒゲ”と摂餌生態の研究～



### ① 変わった特徴を持つ魚 “かたかし”

沖縄では、ヒメジ科の魚を総称して“かたかし”と呼んでいます。その他には、“おじさん”や“じんばー”と呼ばれることもあります。沖縄近海には、3属約20種が生息しており、海に入れば、簡単に見ることができます。また、釣りをする人にとっても馴染み深い魚かもしれません。

そんな“かたかし”には、他の魚とは違う一風変わった特徴があります。

それは、口の下に2本の立派なヒゲがあることです。

見比べてみよう！  
“かたかし”  
のなかま

オオスジヒメジ①



インドヒメジ



ヨメヒメジ



ハウライヒメジ



オオスジヒメジ②



タカサゴヒメジ



ミナミヒメジ



オジサン



リュウキュウヒメジ



フタスジヒメジ



アカヒメジ



コバンヒメジ



マルクチヒメジ



リュウキュウアカヒメジ



モンツキアカヒメジ



### ② なんでヒゲがあるの？

さて，“かたかし”のヒゲは、何のためについているのでしょうか・・・

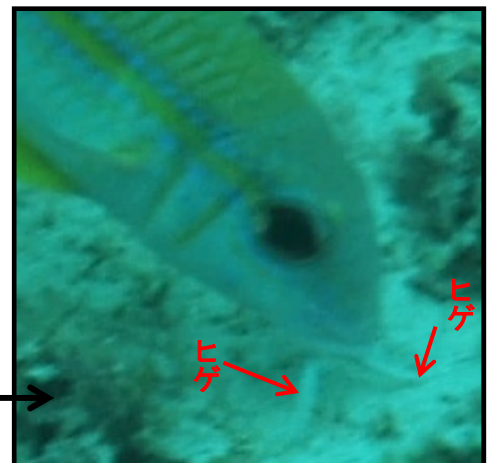
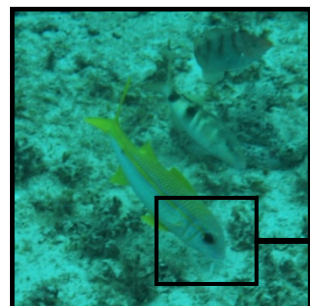
男らしさをアピールするためでしょうか？

オシャレのためでしょうか？

剃り忘れたのでしょうか？

実は・・・

このヒゲには、私たちの舌にある味蕾（みらい）に似た感覚器が備わっており、ヒゲを使って餌を探し当てることができるのです。



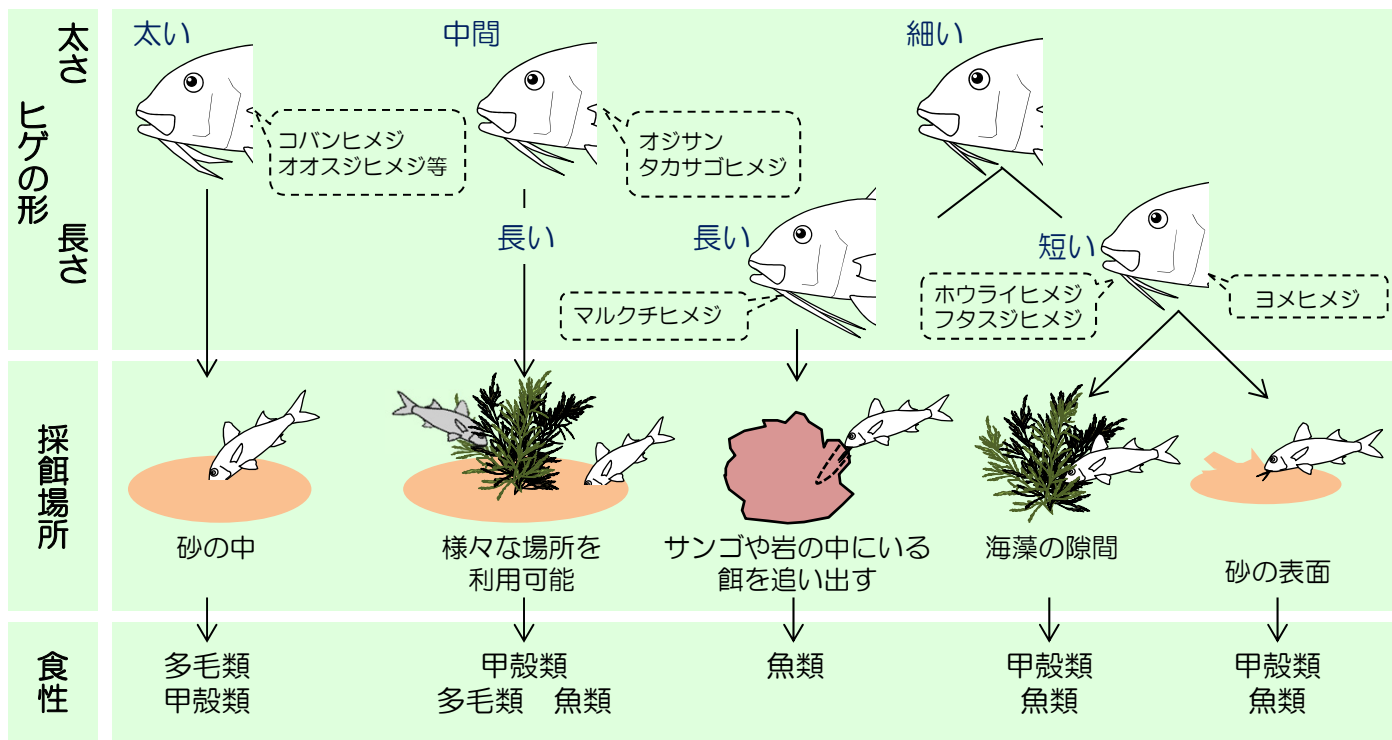
餌を探しているアカヒメジ

### ③ ヒゲの形からみる“かたかし”のお食事情

“かたかし”には、どの種類にも皆ヒゲがついています。しかし、種類ごとにヒゲの長さや太さは様々です。さて、ヒゲを使って餌を探すのであれば、このようなヒゲの形と“食べている餌”、“餌の探し方”、“餌を探す場所”に関係はあるのでしょうか？

そこで、“かたかし”がどこで、なにを、どうやって食べているのか、餌を摂る様子や、胃内容物を観察することで調べました。

調査の結果、ヒゲの種類は、“太くて長い”、“細くて短い”、“細くて長い”、“中間的な太さで長い”の4タイプに大きく分けることができ、ヒゲの形と、餌を探す場所や食べている餌に密接な関係があることがわかってきました。



砂の中でヒゲを動かすには、砂の抵抗に負けないように、パワーが必要です。ヒゲが太いことで、砂の抵抗に負けずに採餌ができると考えられました。一方、細いヒゲでは、砂の中でヒゲを自由には動かせませんが、他の場所でなら、より繊細な動きが可能になるため、サンゴや海藻などに隠れた餌を探し当てることができます。中間的な太さのヒゲを持つ種は、バランスよく様々な基質を利用できる可能性があります。その結果、食性も幅広くなったと考えられました。

### ④ 最後にひとこと

“かたかし”のように、種ごとに食べる餌や餌を探す場所などが違うということは、生態系に与えている影響や役割が種ごとに違うことを意味します。また、これらの情報を集めることで、形から食性、生態、生息環境を予想することができるようになります。

生物の生態や生物同士の結びつきを調べ、それらを解明し、情報を積み上げていくことは、非常に時間と労力がいるますが、総合的に海の資源を守っていくうえで、欠かすことのできない大切な仕事のひとつであり、今後も研究を継続していこうと思っています。

### ⑤ 参考資料・文献

平成24年度沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業に関する委託「水産重要魚類の生活史と遺伝的集団構造の解明」研究成果報告書。